

香川大学における予実管理ダッシュボードの内製開発

中村 綾花^{1),2)}, 末廣 紀史³⁾, 小林 誠³⁾

神馬 豊彦²⁾, , 米谷 雄介⁴⁾, 八重樫 理人⁴⁾

1) 香川大学地域創生推進部イノベーションデザイン研究推進課, 2) 香川大学大学院創発科学研究科,
3) 香川大学情報化推進統合拠点 DX 推進研究センター, 4) 香川大学創造工学部,

nakamura.ayaka@kagawa-u.ac.jp

Development of a Budget and Actual Management Dashboard at Kagawa University

Ayaka Nakamura^{1),2)}, Norifumi Suehiro³⁾, Makoto Kobayashi³⁾,
Toyohiko Jinma²⁾, Yusuke Kometani⁴⁾, Rihito Yaegashi⁴⁾

1) Innovation Design and Research Promotion Division, Regional Revitalization Promotion Offices, Kagawa University, 2) Graduate School of Science for Creative Emergence, Kagawa University, 3) DX Research Center, Integrated Center for Informatics, Kagawa University, 4) Faculty of Engineering and Design, Kagawa University

概要

予実管理とは予算管理手法の一つで、予算と実績を比較し、差異が生じた原因を分析するとともに、それを改善する活動全般を指す。香川大学は予実管理のためのダッシュボードを内製開発した。本論文では香川大学が内製開発した予実管理ダッシュボードについて述べる。

1 はじめに

一般社団法人国立大学協会が令和6年6月に発表した「国立大学協会声明ー我が国の輝ける未来のためにー」^[1]をはじめとして、国立大学を取り巻く財務状況は悪化しており、この危機的状況を改善していくことが求められている。堀井^[2]は、「予算に適合するよう戦略や行動計画を臨機応変に変化させることが、イノベーションや戦略変化の創出につながる」と述べた。香川大学においても、予算に適合させるように戦略や行動計画を臨機応変に変化させることができておらず、そのための仕組みを構築することが求められている。

予実管理とは予算管理手法の一つで、予算と実績を比較し、差異が生じた原因を分析するとともに、それを改善する活動全般を指す。香川大学は、予算に適合させるように戦略や行動計画を臨機応変に変化させるべく、予算と実績を比較し、差異が生じた原因を分析する予実管理ダッシュボードを内製開発した。本論文では香川大学が内製開発した予実管理ダッシュボードについて述べる。

他方、研究活動を主導する教員においても、従来の学内予算や外部資金に加えて、「イノベー

ション・コモンズ（共創拠点）」^[3]の方向性に示されるように、学内の関係者が連携を図りつつ、多様なステークホルダーとの共創のもとで取組を進めていくうえで、学部等所属の垣根を越えて1つの研究に複数人で取り組むことや、同一教員が複数のプロジェクトに並行して取り組む必要性が指摘されており、予実管理についても重要性に加えて、複雑性についても年々増している状況にある。

DIGGLE 株式会社の調査レポート^[4]によると、週に1回程度以上見込額の更新をおこなう予実管理担当者は、37%は月60時間以上、20%が月40時間以上～60時間未満の残業をおこなっており、見込の更新頻度が高い企業の予実管理担当者ほど残業時間が長い傾向にあることが明らかになった。昨今の国立大学の財政状況を鑑み、また適正な予算執行に向けて、きめ細かな予実管理が必要な一方で、その頻度によっては、大きな業務工数負担となる可能性がある。本研究では、予実担当者や、研究を主導する教員、特にプロジェクトリーダーを中心とした関係者の業務工数の軽減と、それぞれの立場によって必要とする情報をいつでも確認できるような細やかなプロジェクト管理を実現する予実管理ダッシュボードを開発する。

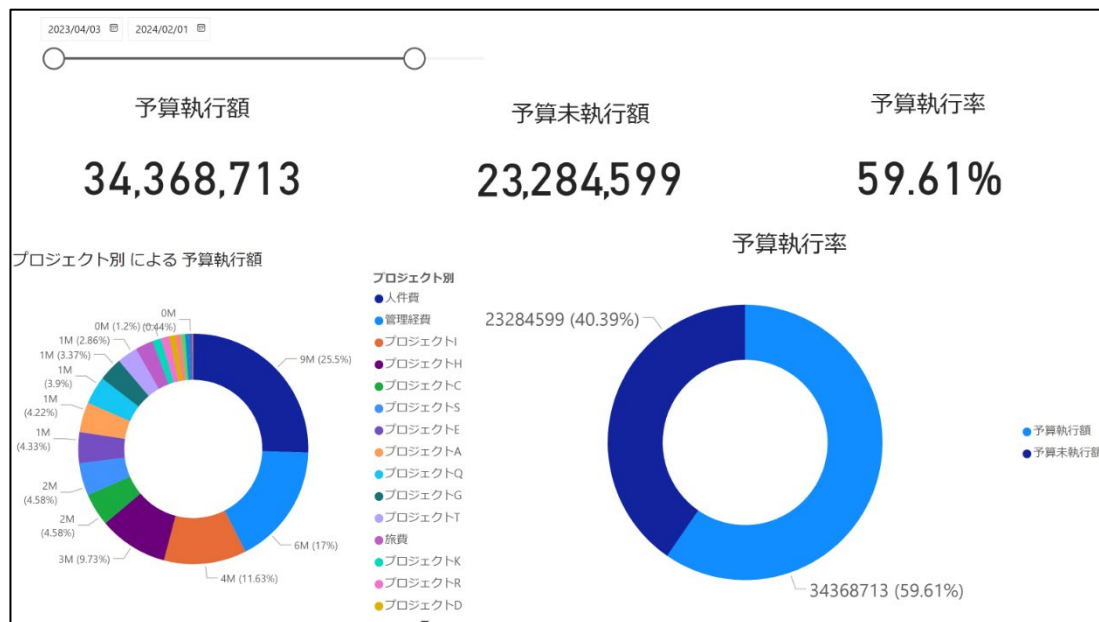


図 1 Overall Report (予実管理ダッシュボード)

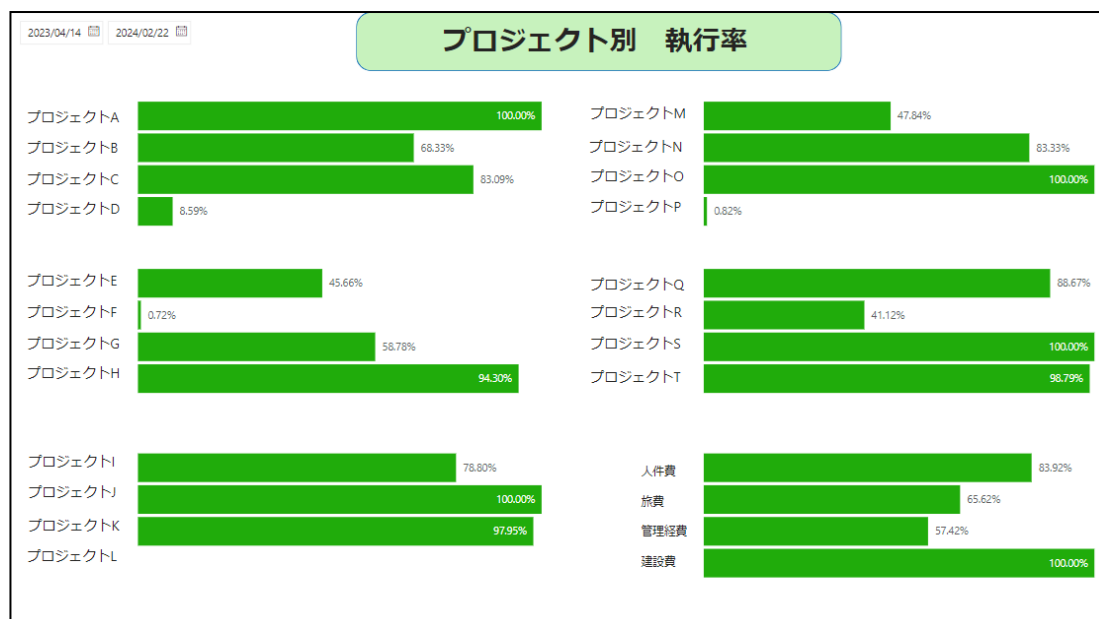


図 2 Management Report (予実管理ダッシュボード)

2 予実管理ダッシュボード

本研究では、香川大学イノベーションデザイン研究所で実施される研究プロジェクトを対象に予実管理ダッシュボードを内製開発する。中村他^[5]は、「予算の管理粒度について、部門予算制度下では、活動の内容に関わらず、費目単位で予算管理が実施される一方で、プロジェクトの予算管理では、活動内容に応じてどのように予算計画を立案し、執行しているかが重要であり、費目に加えて活動内容に応じた予算管理が実施される必要

がある」と述べた。予実管理ダッシュボードは、Microsoft Power Automate Desktop と Microsoft Power BI を連携させることで開発し、Microsoft Power Automate Desktop を用いて財務会計システムから定期的に必要なデータを取得するとともに、Microsoft Power BI を用いてそのデータを分析・可視化している。

予実管理ダッシュボードは、イノベーションデザイン研究所で実施されるすべての研究プロジェクトの予算額、予算執行額と執行率を表示し、主にイノベーションデザイン研究所の所長や副所長をターゲットとした Overall Report、すべてのプロ

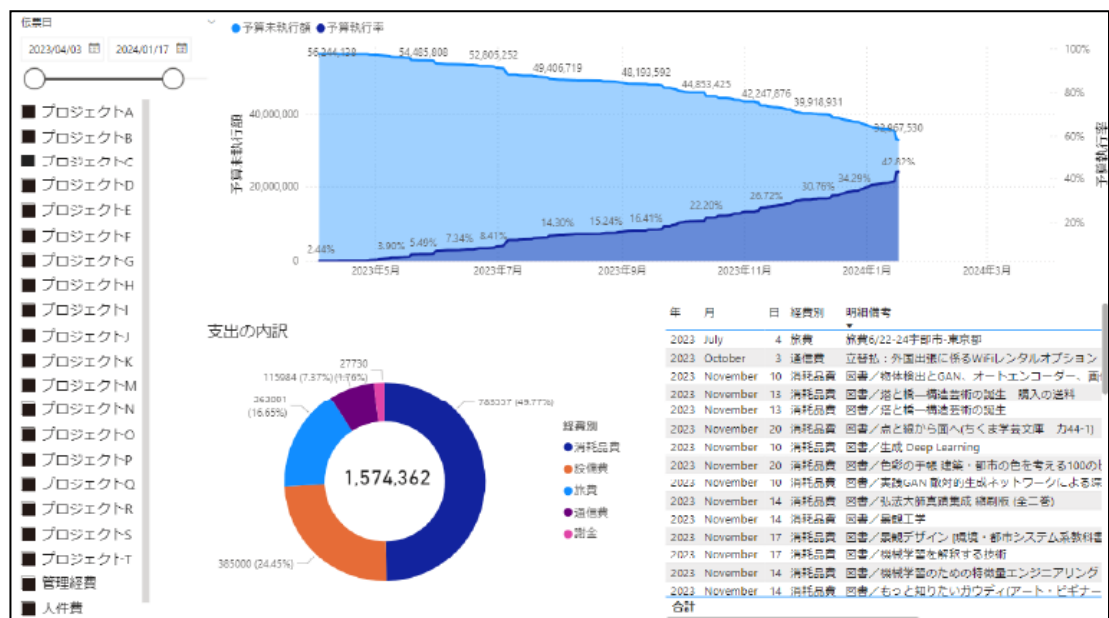


図3 Detailed Report (予算管理ダッシュボード)

プロジェクトの執行率を表示し、主に事務管理職を対象とした Management Report, 個々のプロジェクトの予算執行額と執行率及び執行内容を表示し、主にプロジェクト担当リーダーとプロジェクト担当事務を対象とした Detailed Report から構成される。図1は、Overall Report, 図2は Management Report, 図3は Detailed Report を示している。

4 おわりに

本研究では、予算担当者や、研究を主導する教員、特にプロジェクトリーダーを中心とした関係者の業務工数の軽減と、それぞれの立場によって必要とする情報をいつでも確認できるような細やかなプロジェクト管理を実現する予算管理ダッシュボードを開発する。本論文では香川大学が内製開発した予算管理ダッシュボードについて述べた。

香川大学イノベーションデザイン研究所では、内製開発した予算管理ダッシュボードの運用を開始させた。実運用から内製開発した予算管理ダッシュボードの有効性を評価する取り組みの実施についても検討している。

参考文献

- [1] 一般社団法人国立大学協会, 国立大学協会声明ー我が国の輝ける未来のためにー, <https://www.janu.jp/news/17026/> (2024年10月20日参照), 2024.
- [2] 堀井悟志, 予算管理とイノベーションの創出,

日本管理会計学会誌, 管理会計学 23 巻 1 号, pp.61-71, 2015.

- [3] 国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議, 我が国の未来の成長を見据えた「イノベーション・コモンズ (共創拠点)」の更なる展開に向けて (まとめの方向性), pp.15-16, https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_keikaku-000029378_02.pdf (2024年10月20日参照), 2023.
- [4] DIGGLE 株式会社, 調査レポート: データドリブンな経営の意思決定ができる企業/できない企業, <https://diggle.jp/news/pressrelease/20240611/> (2024年10月20日参照), 2024.
- [5] 中村正伸, 齊藤毅, 鈴木研一, P2M におけるプログラム&プロジェクト中心の予算管理, 千葉商大紀要 52 巻 1 号, pp.201-217, 2014.